



「がんばらんばキッズ」に迎えられた宮城県選手団



総合開会式で元気に行進



打ったボールの行方を追い、次の塁を目指す(ソフトボール)



華やかなコスチュームに身を包んで(ダンススポーツ)



真剣なまなざしで対局(健康マージャン)

第29回 全国健康福祉祭ながさき大会 ねんりんピック 長崎2016 レポート

交流楽しみ シニアパワー全開

長崎県の12市3町を舞台に開催された今大会には、全国から約1万1000人の選手、役員が集まった。盛大に行われた総合開会式や、選手のパワーあふれる競技の様子を紹介する。

地元小学生と交流

大会初日の10月15日、長崎県はとても爽やかな青空に恵まれました。初めに、各都道府県の選手を専門に応援する「がんばらんばキッズ」との交流会がありました。宮城県選手団を出迎えてくれたのは、諫早市立小栗小の児童たちです。かわいい子どもたちが宮城の名所・名産品を一生懸命紹介してくれる姿はほほえましく、感動を誘いました。

いよいよ、長崎県立総合運動公園陸上競技場での総合開会式です。会場

インタビュー

前向きに生きる人は元気



宮城県選手団団長 鈴木隆一さん (県社会福祉協議会会長)

宮城県選手団は大会の舞台となる長崎県まで、飛行機とバスを乗り継いで向かいました。長距離移動にもかかわらず、皆さんは終始元気。福岡空港から長崎県までのバスでの移動中は、チームごとに会話を楽しみ、度々笑いが起き、盛り上がりを見せていました。

長崎県に到着早々、宿泊ホテルごとに結団式を開催しました。私が参加した結団式はゲートボールに出場する96歳の男性が首頭を取り、皆で乾杯しました。大会を控えていますから、お酒はほとんどにね(笑)。チーム紹介では意気込みを発表してもらいました。上位の成績を目指するのはもちろん、仲間と楽しい時間を過ごしたいという思いも感じました。

各会場では地元名物の振る舞いもありました。いただいたミカンは格別のおいしさでしたね。いくつになっても、楽しみながら希望を持って何かに取り組んでいる人は生き生きしていて、とても元気です。前向きに生きることの大切さを改めて感じました。

会場で名物の振る舞い

交流大会は県内各地で行われました。私が見学目に参加しました。熱戦を繰り広げた結果、サッカーとバウンドテニスが団体優勝、ゴルフが個人優勝を果たすなど、各種目で力と技が発揮されました。

長崎県美術館で行われ



大会関係者や一般客が訪れた美術館

た「美術展」には、宮城県から10作品が展覧されました。日本画の部で長寿社会開発センター理事長賞、写真の部で最高年齢者賞を受賞しました。スポーツ、文化ともに全力を尽くし、選手団にとっては悔いのない4日間だったことでしょう。

来年は「秋田からつなごれ! つらなれ! 長寿の輪」をテーマに、秋田県で開催されます。ねんりんピック秋田2017 PRキャラクター「んだっチ」が出迎えてくれます。来年も心に残る大会になることを期待したいものです。(M・O)

優勝や入賞果たす

16日からはスポーツ・文化交流大会です。宮城県からは21チームが20種